

## ■市民対話の開催状況について（1）

平成 30 年 10 月 9 日

### ●鎌倉市本庁舎等整備市民対話（第3回）を開催しました。

鎌倉市では、平成30年（2018年）度末までを目標に、新たな本庁舎の基本構想の策定に向けた取組を進めています。

#### 0. 実施概要

市民目線や市民感覚を取り入れた「本庁舎等整備基本構想」の策定を目指し、取組状況を市民の皆さまに広く共有するとともに、新たな本庁舎のあり方・理念について多様な意見を伺うことを目的として、次のとおり市民対話（第3回）を開催しました。

#### 1. 開催概要

市民対話（第3回）は、「本庁舎のありたい姿」を描いた前回の対話（8月4日に実施）の結果をもとに、「ありたい姿の実現のために本庁舎に導入したい機能」について話し合っていました。

日時 平成30年9月8日（土）午後2時～4時

会場 鎌倉市役所 第3分庁舎 1階 講堂

出席者 市民対話メンバー12名

傍聴者3名

鎌倉市（行政経営部（齋藤、服部）、公的不動産活用課（関沢、下澤、石塚、江川））

都市環境研究所等（大野、谷口、兼森、西村、荻原\*、寛\*）

\*ファシリテータを務める。

プログラム

- （1）対話の目的や進め方を共有する
- （2）本庁舎等整備に関する情報の共有（深沢地域整備事業用地の概要や市政 e-モニターアンケートの集計速報など）
- （3）本庁舎に導入したい機能についての対話
- （4）一人一人の本日の気づき

#### 2. 対話等の概要

##### （1）対話の目的や進め方を共有する

- ・ ファシリテータから、本日の対話の目的と進め方について説明しました。

##### （2）情報共有：本庁舎等整備に関連する情報の共有

- ・ 鎌倉市から、深沢地域整備事業用地の「想定し得る最大規模の降雨による浸水想定」を含めた概要や「市役所本庁舎等整備の取組について」に関する市政 e-モニターアンケート集計速報などについて説明しました。
- ・ 参加者から「浸水想定」に関し、これからも正確な情報を伝えてほしいとの意見が示されました。

### (3) 本庁舎に導入したい機能についての対話

- ・ 前回の対話で示された「本庁舎のありたい姿」（A：ネットワーク型ミニマム・コンパクトな本庁舎、B：稼げる次世代の本庁舎、C：強くて壊れない防災時でも頼れる本庁舎、D：簡素化・効率化・ミニマム本庁舎）をもとに、本庁舎に導入したい機能について対話をしました。



会場の様子（内側の対話を外側のメンバーが傾聴）



会場の様子（内側の対話）

- ・ 「フィッシュボウル\*」という対話の進め方により、本庁舎に導入したい機能を具体化していきました。対話で語られた主な機能は次のとおりです。（対話後、重要と思う意見に1人5票まで投票しました。下線は得票があった意見、後ろの数字は得票数を示しています。）

\*フィッシュボウルとは、内側と外側の二つの円を椅子で作り、内側に座る人の対話を外側の人が見る手法です。内側と外側の人が入り替わりながら良い対話を深めつつ、その内容を参加者全員で共有します。内側の対話を外側から見るという意味で、フィッシュボウル（金魚鉢）と呼ばれています。立場の異なる参加者がお互いの観点を理解し、傾聴することができます。

#### A. ネットワーク型ミニマム・コンパクトな本庁舎・・・【計9票】

- ・ 先行事例があるはず（例：アメリカ・エストニアの都市） [1票]
- ・ 機能を分散化。鎌倉にも深沢にもある [1票]
- ・ 機能の分散化は災害時も有効 [5票]
- ・ 防災時、鎌倉は観光客の受入れ、深沢は司令拠点 [2票]
- ・ 腰越にも拠点

#### B. 稼げる次世代の本庁舎・・・【計7票】

- ・ 観光資源になる、人を呼べる本庁舎 [3票]
- ・ 例えば、鎌倉の文化・歴史を展示 [1票]
- ・ 仕事する・起業する人への開かれた場としての機能（とくに若い世代やIT系企業を呼ぶ） [2票]
- ・ 例えば、テレワーク拠点
- ・ いい椅子と机を備えた図書館機能 [1票]

**C. 強くても壊れない、防災時も頼れる本庁舎 . . . [計 18 票]**

- ・ 前回から今回の対話の間にも地震と台風が襲った。都市機能が麻痺する事例が多発している
- ・ そもそも、都市機能の設計が大事。災害は鎌倉市単独で起きるわけではなく、他市との連携が大事。市庁舎だけでは解決できない
- ・ 電源維持（自家発電を含む）は必須 [5 票]
- ・ 携帯の充電サービス
- ・ 普段はあまり使われてない余白が、緊急時のスペースになることも大切 [3 票]
- ・ いざというときは、アナログでの情報連絡（例：拡声器）も役に立つ [1 票]
- ・ 災害時は海側からの支援が有効。川も使える
- ・ 現場の一次情報把握と市民への伝達・共有機能が大事 [4 票]
- ・ 外は堅固、中のレイアウトは柔軟 [5 票]
- ・ 嵩上げて建てることへの不安

**D. 簡素化・効率化・ミニマム本庁舎 . . . [計 5 票]**

- ・ AI や RPA で市の業務の効率化。LINE との提携もその方向では。
- ・ 市職員の在宅勤務も普通になる [2 票]
- ・ アナログにしか対応できない人もいるから、対面で話せる機能はとても大事 [1 票]
- ・ IT の活用とアナログとは、バランスが大事 [1 票]
- ・ そうすると、立派な建物も無駄になりかねない
- ・ 今は、無駄な空間も多い。例えば、議場の使用率はとても低い [1 票]
- ・ 快適だが誘惑は少ない場所

**共通又はその他：**

**世の中は変わり続け、本庁舎に求めるものも変わり続ける**

- ・ 30～50 年後は予測できない。人口も減少するし、キャッシュレス化も進む [1 票]
- ・ 未来の「市庁舎」の姿や機能は現在と全然違うはず [3 票]
- ・ エストニアの役所は建物は古いですが、完全 IT 化され人は非常に少なく、スペースはさほどいらなくなっている
- ・ 「次世代」の 10 代の多くは、（鎌倉を好きでも）数年経つと鎌倉を離れる
- ・ 市庁舎は若者が集まる場所ではない

**鎌倉らしさを残し、生かす**

- ・ 地理的特殊性：山と海に囲まれ入りづらい地形を生かす
- ・ 自然が近い
- ・ 人同士、挨拶する、関係性が近い [3 票]

**「温かさ」は求められ続ける**

- ・ 世の中が技術で変わり続ける一方、ついていくのも大変。これらを（特に）高齢者に丁寧に教える機能は大切 [3 票]

## 対話について

- ・ 市民対話の回数、人数とも不十分ではないか
- ・ こうした対話の機会自体は非常に大切 [1票]
- ・ だからこそ、市民ができることはどこまでかを考える [2票]



対話で出た本庁舎に導入したい機能など

- ・ 対話をした後、1人5枚のシールを持ち、対話の内容が記録された模造紙を見ながら、重要であると思う意見に投票しました。
  - 投じられた55票（投票されなかった方1名）のうち、3分の1が「D. 強くて壊れない、防災時も頼れる本庁舎」関連の意見に集まりました。市民の皆さんの防災への関心の高さが改めて確認されました。
  - これまでの4つ（A～D）の方向性に加えて、「時代の変化に合わせ、本庁舎の姿と機能も変わる」「鎌倉らしさを生かす」「人と人が対面で接する温かさ」という意見などの新たな視点にも投票が集まっていました。
- ・ 投票後に行った投票結果を見ながらの対話では、次の意見が示されました。
  - ここに書かれた機能の全てを一箇所で実現する必要はない。例えば、「強くて壊れない、防災時も頼れる本庁舎」は深沢の新しい庁舎に期待したいが、「稼げる次世代」の機能は、今の本庁舎の跡地で実現した方が良い。
  - 複数のアイデアを組み合わせることで、理想的な機能がつくれそう。例えば、「使用率の低い議場」が、いざというときに机の下から「携帯充電1000ポート（自家発電あり）」が出てくる避難所になれば、使用頻度が低いことも強みになる。



会場の様子（投票の様子）

## サークル\*：一人一人の本日の気づき（感想含む）



会場の様子（最後は一人一人が振り返り）

- ・ 「鎌倉らしい市庁舎」は無人ではない。ITによる効率化と人の温かみの組合せが良い。
- ・ いろいろな気づきがあった。あってほしい市庁舎の姿が、議論するにつれて段々とイメージできてきた。
- ・ 対話することで、他の人の考えがわかってよかった。
- ・ 市庁舎はできるだけ機能的なものにしてほしい。
- ・ 意見がだんだん共有化されてきてよい。分散化は、コストが増えるという側面もある。
- ・ 世代・性別を越えたこのような対話はとてもよい。
- ・ 今までなかった視点が得られた。
- ・ 台風・地震がまた来て、防災性に関しては追いつけない感じ。他の市民が感じていることをアンケートで確認できてよかった。
- ・ 本庁舎は鎌倉らしいよい場になってほしい。
- ・ このメンバーだけでなく、もっと大勢と対話して決めてほしい。深沢前提は考えづらい。浸水は起きてしまったらどうしようもないので、考えてほしい。
- ・ 対話の結果がどう使われるか分からないのでしっくりこない。分散化については、深沢・鎌倉だけでなく、大船・玉縄も考えないとダメだと思う。

\*サークルとは、参加者が車座になり、全体で考え対話の場をつくり出す方法。

### 3. 今後の進め方

これまでの対話を基に、更に多くの市民の皆さまと一緒に本庁舎について考えていくため、市民対話メンバーに加えて公募の参加者による「拡張ワークショップ」を平成30年10月8日（月・祝日）に市民対話（第4回）として開催しました。次回は、最終回として市民対話（第5回）の開催を予定しています。

## ■市民対話の開催状況について（2）

### 鎌倉市本庁舎等整備市民対話（第4回）：拡張ワークショップの開催状況（速報）

#### 0. 実施概要

市民目線や市民感覚を取り入れた「本庁舎等整備基本構想」の策定を目指し、取組状況を市民に広く共有し、新たな本庁舎のあり方・理念について多様な意見を伺うことを目的とした市民対話の一環として、次のとおり拡張ワークショップを開催した。

#### 1. 開催概要

拡張ワークショップは、「本庁舎のありたい姿及び導入したい機能」について行ってきた過去3回の市民対話をもとに2部構成で実施。参加した市民が「新しい本庁舎に何を求めたいか」、「現在の本庁舎の場所をどう生かしたいか」について話し合った。

日時 平成30年10月8日（月）

第1部：13:30～15:30

第2部：16:00～18:00

会場 深沢学習センター 3階ホール

出席者 第1部：39名（うち12名へは別途詳細説明、2名は開始直後に参加辞退で、計14名が対話不参加）

第2部：20名（うち1名は退室し、対話不参加）

鎌倉市（行政経営部（齋藤）、公的不動産活用課（関沢、下澤、石塚、江川、山本））

都市環境研究所等（大野、谷口、兼森、西村、荻原\*、笥\*）

\*ファシリテータを務める。

プログラム 第1部：（1）対話の目的や進め方の共有

（2）本庁舎整備に関する情報の共有

（3）新しい本庁舎に何を求めたいかについての対話

第2部：（1）対話の目的や進め方の共有

（2）本庁舎跡地活用の検討に関する情報の共有

（3）現在の本庁舎の場所をどう生かしたいかについての対話

その他 託児を実施（第1部で乳幼児5名を受入。うち2名は開始直後に保護者参加辞退のため、退室）

#### 2. 対話等の概要（第1部）

##### （1）対話の目的や進め方の共有

- 冒頭の鎌倉市からの挨拶に続き、ファシリテータから、本日の対話の目的と進め方について説明した。

##### （2）本庁舎整備に関する情報の共有

- ・ 鎌倉市から本庁舎整備に関する検討の経緯、移転先の深沢地域事業用地の現状や想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定などについて説明した。
- ・ 一部の参加者から、本庁舎整備に関するより詳しい説明を求める意見が示されたため、希望者（12名）と市の意見交換をロビーで行った。

### (3) 新しい本庁舎に何を求めたいかについての対話

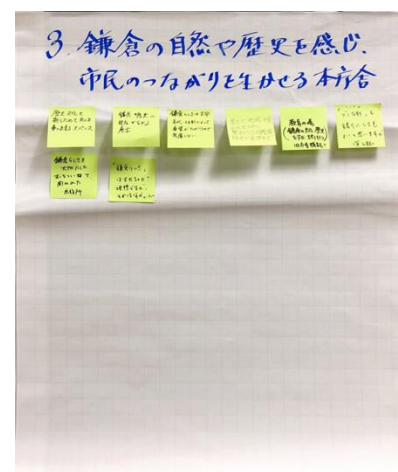
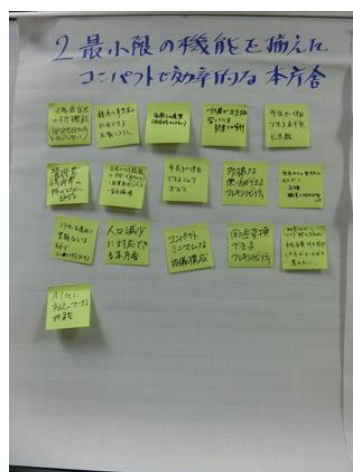
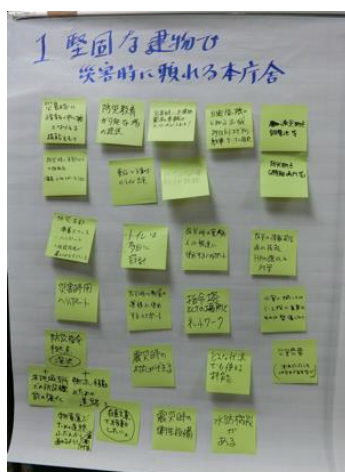
- ・ 4人1組でグループをつくり、新しい本庁舎に何を求めたいかについて、テーブルごとに市民同士による対話を行った。約15分ごとに各テーブルのメンバーを入れ替え、合計3ラウンドの対話を実施。参加者は多くの参加者と考えや想いを共有した。

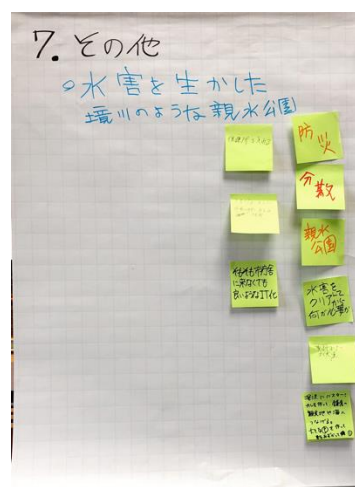
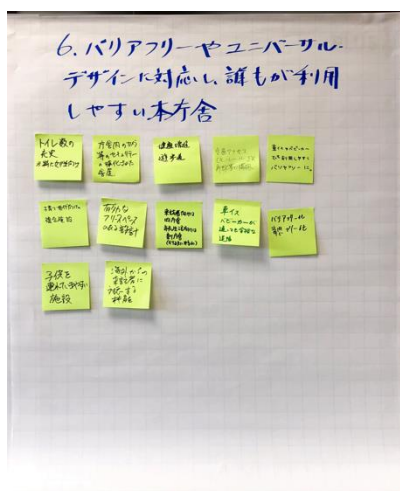
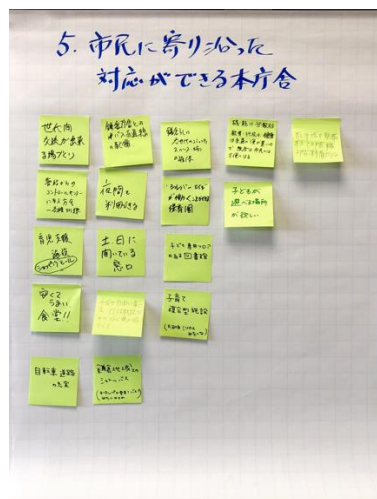
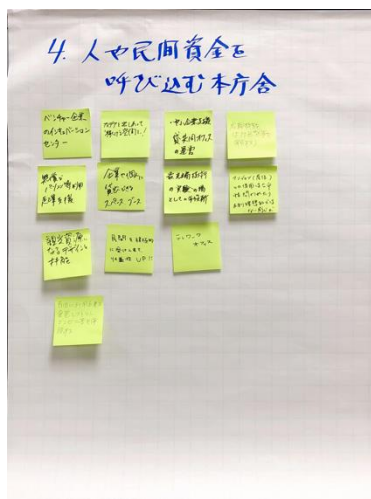


会場の様子（市民の皆さんが対話する様子）

- ・ 対話後には参加者一人ひとりが「新しい本庁舎で実現したいこと」を付せんに書き出した。書き出された101枚の付せんは、これまでの市民対話の結果から抽出した次の区分で整理した。

1. 堅固な建物で災害時に頼れる本庁舎
2. 最小限の機能を揃えた、コンパクトで効率的な本庁舎
3. 鎌倉の自然や歴史を感じ、市民のつながりを生かせる本庁舎
4. 人や民間資金を呼び込む本庁舎
5. 市民に寄り添った対応ができる本庁舎
6. バリアフリーやユニバーサルデザインに対応し、誰もが利用しやすい本庁舎
7. その他（上記に関連しない機能）





対話で出た新しい本庁舎で実現したいこと

### 3. 対話等の概要（第2部）

#### (1) 対話の目的や進め方の共有

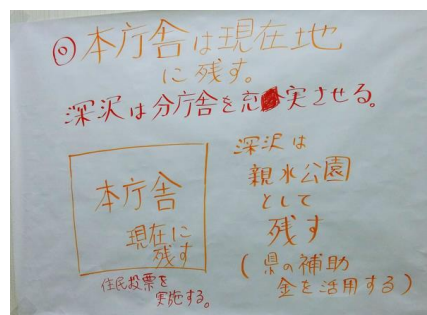
- 冒頭の鎌倉市からの挨拶に続き、ファシリテータから、本日の対話の目的と進め方について説明した。

#### (2) 本庁舎跡地活用の検討に関する情報の共有

- 鎌倉市から現在の本庁舎の場所に新規導入を検討している機能などについて説明した。

#### (3) 現在の本庁舎の場所をどう生かしたいかについての対話

- 第1部同様に4人1組でグループをつくり、現在の本庁舎の場所で何を実現したいかについて、テーブルごとに市民同士による対話を行った。約20分ごとに各テーブルのメンバーを入れ替え、合計3ラウンドの対話を実施。参加者は多くの参加者と考えや想いを共有した。
- 対話の開始直後、参加者のうち1名が、グループによる対話を否定して自分の意見を模造紙に書き始め、「本庁舎を現在地に残すという意見を発表させてほしい」と主張した（意見は写真のとおり）。対話の場



退室者の残した意見







発表の様子

#### 4. 今後の進め方

次回は、拡張ワークショップの内容をもとに、市民対話メンバーによる市民目線での本庁舎のあり方についての対話を最終回（第5回）として開催予定。